

第1回県西地域サイクルツーリズム推進協議会 議事概要

1 日時

令和4(2022)年11月22日(火) 10:00~12:00

2 場所

Web会議

3 出席者

別紙「出席者名簿」のとおり

4 内容

(1) 県西地域サイクルツーリズム推進協議会の設立について

(2) 議事

- ①モデルルート(案)について
- ②県西地域における取組事例について
- ③走行環境整備について
- ④今後の進め方(案)について

5 結果概要

- ・事務局から県西地域サイクルツーリズム推進協議会の設立について説明し、一部規約を修正した上で承認された。
- ・事務局からモデルルート(案)について説明し、決定された。
- ・県西地域における取組事例として、県自然環境課が「日光国立公園(奥日光)セルフガイドEバイクツアーの構築」を報告した。
- ・事務局から走行環境整備の方針について説明し、承認された。
- ・事務局から今後の進め方について説明した。

6 内容

(1) 事務局から県西地域サイクルツーリズム推進協議会の設立について

○神山氏(鹿沼市観光交流課 ※代理)

- ・規約(案)第2条(1)~(4)は目的を達成するための手段であるため、サイクルツーリズムを推進するための目的として記載するのはふさわしくないと思う。

○星委員(塩谷町)

- ・神山氏の意見に同意である。

○事務局

- ・第2条は、項目(1)~(4)を削除し、「協議会は、県西地域におけるサイクルツーリズムを推進することを目的とする。」と修正する。また、新たな条項「検討事項」を追記し、第2条の項目(1)~(4)を記載する。

(2) 議事概要

①モデルルート(案)について

○大森委員

- ・日光市内は高低差があり、細い道もあるので、安全面に力を入れ、事故が起こらないようにしなければならない。
- また鉄道駅や道の駅がモデルルートと接続している点は評価できる。

○東浦委員（株JTB宇都宮支店）

- ・多くの観光地が含まれており魅力的なルートとなっている。上級者向けルートが多い印象があるので、レベルに応じてモデルルートを切り分け、各箇所をPRすることが大切である。

○高根沢委員（株栃木プロジェクトプロ）

- ・サイクリストには様々な階層があるので、各階層に応じたルートのセグメント分け及び情報発信・提案が重要である。

○篠原座長

- ・各客層に合った目的別のルートを設けることでマネタイズされるのではと思う。

○若杉委員（那須ブラーゼン）

- ・起伏が多く、美しい景観を有しているため、世界中に誇れるコースであると思う。ただし安全面の留意点が多く、トラブル発生時の連絡窓口や安全対策を検討する必要がある。

○岸氏（株東武鉄道 ※代理）

- ・明後日11月24日から来年4月までの期間、東武鉄道日光鬼怒川エリアにてサイクルトレインの実証実験を実施する。また訪日外国人向けのモニターツアー（下今市駅～鬼怒川温泉駅）を12月に予定している。そこで頂いた意見をフィードバックし、サイクルトレインを活用したツアーを他社と共同企画したい。

○清水氏（代理：JR東日本株）

- ・大宮支社ではサイクルツーリズムと連携した取り組みはない。今後検討していきたい。

○高瀬氏（宇都宮市道路建設課 ※代理）

- ・宇都宮市森林公園をジャパンカップコースの一部としており、そこまでモデルルートを繋げてほしい。
⇒事務局：森林公園はサイクルターミナルも設置されており、ルートの拠点となりうる。今後調整させていただく。

○星委員（塩谷町）

- ・今年9月にJAしおのや付近から西に向かう県道が新たに供用し、さらに小林橋左岸から西に向かう町道を経由し、佐貫観音や国体カヌー会場の周辺を通る町道に繋がるため、モデルルートに加えてほしい。
⇒事務局：モデルルートは広域的な基幹ルートを設定している。「枝葉」にあたるルートは、今後作成する観光マップにて示す方法もある。事前の意見照会では示されなかったルートなので、後日詳しくお聞きしたい。

○神山氏（鹿沼市観光交流課 ※代理）

- ・サイクルトレインの取り組みを、鹿沼エリアにも広げて頂きたい。

②県西地域における取組事例について

- ・「日光国立公園（奥日光）セルフガイドEバイクツアーの構築」について
（県自然環境課 仁平委員 説明）

○篠原座長

- ・Eバイクは何台用意しているのか。
⇒自然環境課：24台用意している。
今後の利用状況によっては、台数増やすことを検討する。
- ・ガイドは何人配置する予定なのか。
⇒自然環境課：セルフガイドツアーのためガイドはいない。コースを案内するGPS機能付ナビゲーションをEバイクに設置している。

③走行環境整備について

○事務局

- ・宇都宮中心部など、既に自転車通行空間の路面表示が整備されている区間などについては、整備内容について個別調整が必要である。

○神山氏（鹿沼市観光交流課 ※代理）

- ・整備の予算措置は各ルートの道路の管理者が行うのか。
⇒事務局：その通りである。
- ・矢羽根や標識等の整備はモデルルート一方方向ではなく、双方向に整備するのか。
⇒事務局：その通りである。

④今後の進め方（案）について

特に意見なし。

7 総括（篠原座長）

- ・県西地域は、県北・県東・県南に続く、栃木県最後のエリアであり、世界に誇れる栃木県の顔となるエリアである。サイクルツーリズムから地域振興に繋げるためには、地域にお金が落ちる仕組み作りが大切である。事務局は道路部局となっているが、ルートの利活用は観光セクションの力が必要である。県観光部局や関係市町は、積極的に事務局へ意見してほしい。引き続き、県・市町間の連携を密にして進めてほしい。